

平成30年度「学校安全総合支援事業」に係る防災教育LHR公開授業指導案

日時 平成30年11月2日(金) 第6校時

実施クラス 全学年

授業者 各クラス担任 副担任

- 1 単元名 「避難所運営ラーニング」
- 2 時間 1時間
- 3 ねらい 避難者の視点に立った学習を通して、日頃から地域に関心を持っておくことの重要性に気付くとともに地域社会に貢献していこうとする態度を身に付けることができる。
- 4 資料等 広用紙(A3用紙2枚貼り付けたもの) 避難者カード
- 5 展開
  - (1) 導入(5分)

	学習内容 発問等	教師の支援 指導ポイント
導入	1 心のケアを受ける。  (1)これから自然災害について学習します。災害について理解し、正しく対処する方法を学ぶことはこれからの生活への「安心」につながることです。 (2)ドキドキすることがあっても、それは自然なことだから安心して下さい。ただし、我慢できなくなったら、遠慮なく知らせてください。 (3)「災害」や「地震」という言葉自体は安全であるため、安心して授業を受けてください。	○生徒の心身の状態に十分配慮する。
	2 平成28年熊本地震を振り返る。 (1) 資料を見る。 (2) 「自助」「共助」「公助」の必要性について知る。	○平成28年熊本地震について資料を見て振り返る。 ○資料から熊本地震当時を振り返り、「共助」「公助」の視点から、災害時の避難所運営の重要性について確認する。

(2) 展開(40分)

	学習内容 発問等	教師の支援 指導ポイント
展開	3 避難所運営ラーニングに取り組む。  どのような配慮をすれば、避難者が安心して過ごせるか考えよう。	
	(1) 避難所運営ラーニングを行う際の約束を確認する。  (2) 避難所に最低限必要な機能(場所)の配置を考える。  (3) 他の班の配置図を確認し合う。また、いい点は取り入れる。 (4) 提示された「避難者カード(避難者の情報が書かれたもの)」の内容を確認しながら、適切な支援になるよう、カードを配置していく。  (5) 配付されたカード以外に必要なものがないか考えさせる。(時間的な余裕があれば)	○避難所運営ラーニングを行う前に、次の2つの約束を確認させる。 ・友達の意見を否定しないこと。 ・考えの違いを認めること ○避難所運営ラーニングの概要を説明する。 ・広用紙を体育館と見立てて、「出入口」と「受付」を配置させる。 ・次に通路(避難者の動線確保)を配置させる。 ・他に必要なスペースや場所を班で話し合わせ、体育館のどこに配置するか考えさせる。 ○他の班の配置図を確認し合い、各班のアイデアを共有させ、思考を広げられるよう支援する。 ○「避難者カード」の内容を確認し、意見を出し合いながら、避難者を体育館に配置させる。 ・カードの配置について、スムーズな話し合いができていないグループには、避難者スペースを地区や要配慮者で分けるなどの視点を与える。 ○食料・物資の配付の仕方について考えさせる。(時間的な余裕があれば)

(3) まとめ (5分)

	学習内容 発問等	教師の支援 指導ポイント
ま と め	4 避難所運営ラーニングを振り返る。	○いくつかの班で話し合っていた内容に触れる。また どのような意見からどのように配置したのかにつ いても触れる。  (1) 対応に正解はなく、避難所の状況を想像し、話し合いながら、よりよいアイデアを生み出していく ことが大切であることを伝える。 (2) 日頃から地域に関心を持ち、つながりをつくっておくことの重要性について考える。
	5 心のケアを受ける。	◎生徒の心身の状態に十分配慮する。  (1) あれから2年と6か月がたとうとしていますが、今年も日本のあちこちで地震や災害が起きています。そ れらをニュース等で見たり聞いたりすると、落ち着かなくなったり、つらいことを思い出して不安になること があるかもしれません。 (2) でもそれは、とても自然な心と体の変化です。でも心配になったら、先生や友達、カウンセラーの先生な どに相談するのもいいと思います。 (3) 「1時間よく頑張りました」などのねぎらいの言葉をかける。

※まとめの「5 心のケアを受ける」については、「熊本県立教育センターHP 防災教育・心のサポート授業」を参照。